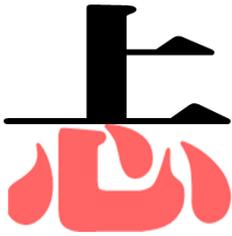
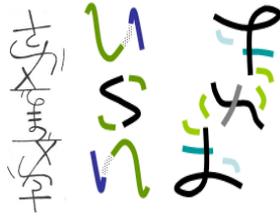
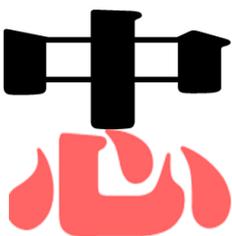
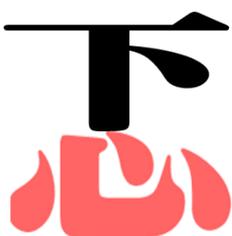




かみしも かみしも かみしも
上下を切る、上下を振る、上下をつける

落語は一人で複数の人物を演ずる。そのため、右を向いたり左を向いたりしてセリフをしゃべりますが、この事を「上下をつける」「上下を切る」「上下をふる」などという。「上下を切る」の上手いか下手かで、落語の上手か下手がわかる。落語は、高座に上がったら下げまで・・・今回は上下についての漢字・和製漢字・国字・感字を並べてみた。上を下への大騒ぎ。

<p>上下と書いて「かみしも」「うえした」「じょうげ」と読む</p> <p>下</p>	<p>舞台や高座の上下は、向かって右側が上手左側が下手。</p> <p>下上</p>	<p>山を上下するための道という会意文字で和製漢字「とうげ」と読む</p> <p>峠</p>	<p>上衣と袴が共布でひとそろいの衣服。「かみしも」と読む。洋服ならスーツ</p> <p>袴</p>
<p>「コウ、ロウ」と読む。弄ぶ（もてあそぶ）の意</p> <p>揉</p>	<p>「たわ」「たお」「たおり」と読む。峠と同じ意。地名・人名に使われる。広島・山口県に多い。</p> <p>埒</p>	<p>「かせ」と読む。紡ぎ取った糸をかけて束ねる大きな糸枠</p> <p>枠</p>	<p>「ロウ」と読む。言葉が高尚でないの意。「なく」とも読み、鳥の鳴き声の意。</p> <p>味</p>
<p>足袋の「こはぜ」</p> <p>鞆</p>	<p>足袋の「こはぜ」</p> <p>鞆</p>	<p>「ロウ」と読む。口偏と同じの意</p> <p>誅</p>	<p>「シュン」と読む。楽器を懸ける横木</p> <p>竿</p>
<p>上下水道？</p> <p>洑</p>	<p>階段の踊り場？エレベータ？</p> <p>階</p>	<p>エレベータ・ガール？</p> <p>妹</p>	<p>下剋上？上を下への大騒ぎ？</p> <p>下上</p>

<p>志「たん」「むなしい」と読む。</p> 	<p>上下逆さ絵</p> 	<p>上下さかさ文字</p>  <p>おきたい平いたかお</p>	<p>土下座？ 下に下に～</p> 
<p>「ちゅう」「ただし」と読む。</p> 	<p>上下駅(じょうげえき)というのがある。 広島県府中市上下町上下にある、西日本旅客鉄道(JR 西日本)福塩線の駅である。</p>	<p>Welcome と読む 下へも置かぬもてなし</p> 	<p>空の上にある双子座流星群を下から眺める</p> 
<p>志「とく」「むなしい」と読む。</p>  <p>志と一緒を使い不安な、どきどきするの意</p>	 <p>←上り 下り→ 府中方面 三次方面</p>	<p>広島県上下町には上下川が流れている。どちらが上流下流？実は山陽と山陰の分水嶺。上は日本海側で下は瀬戸内海側？とか</p>	<p>北海道上川郡に上川町と下川町がある。両町ともジャンプの町だ。レジェンド葛西紀明選手の出身地が下川町。女子ジャンプの高梨沙羅選手が上川町。</p>

上下(じょうげ、うえした)とは
六方位(六方)の名称の一つで、高さ・深さを指す方位の概念を表す言葉である。

舞台・高座における上下(かみしも)
舞台・高座においては観客側から向かって右を上手(かみて)、左を下手(しもて)と呼び、左右関係に「上下」を当てている。この場合、主な人物の流れは上から下へ向かう。

価値判断としての上下
位置の「上下」から派生して、優れる方や力の有る方は「上」、劣る方や力の無い方は「下」と表現される。
上位/下位、上等/下等などと用いる。

優劣成績評価の表現として、
優良を「上」、劣悪であることを「下」と表現する。
技量が優れることを「上手(じょうず)」
技量が劣ることを「下手(へた)」と表現する。

囲碁や将棋では、
強い側を『上手(うわて)』、弱い側を『下手(したて)』という。
社会的地位では、
貴い方・治める側を「上」、賤しい方すなわち従う側を「下」
職場内地位では、
「上役」「上司」「上官」と「部下」「下僚」という。
社会的地位では、
「お上」と「下々」、「上流階級」と「下流階級」という。

長幼
年齢においては、「年上」と「年下」と呼ばれる。

交通
首都・東京に向かう方を「上り」
逆の方向に向かう方向を下り(くだり)という。